

# 活動成果紹介 (25分)

## 『家庭用ロボットの展開・浸透のため方向性・戦略への提案』

- \* 吉田伸（ダウ・東レ株式会社）
- 佐川光義・浜田 義典・綿屋茂男（カヤバ株式会社（KYB））
- 岡田 哲・山田 喜道（京セラ株式会社）
- 橋本彩花（株式会社AI Samurai）
- 渡部秀昭（塩野義製薬株式会社）
- アドバイザー： 井上博之（ナブテスコ株式会社）

# 吉田 伸 Shin Yoshida

ダウ・東レ株式会社 (ダウ・グループ)  
研究開発部門 知的財産戦略担当部長



## 【職責：社内】

Global IP Strategist - 知財戦略、出願戦略、知財管理、知財教育、IPL、他  
米国、日本、中国、韓国、インド、ヨーロッパなど  
External Technology Scouting  
APAC Employee Resource Group Chair

## 【知的財産関連の主な経歴：社外】

MBA  
知的財産アナリスト認定講座 (特許)  
MOT知的財産戦略コース  
株式会社レイテック主催PAT-LIST研究会グループリーダー  
株式会社レイテック顧問  
IAM Strategy 300に複数回、選出される

*2022 - 2023 IPL推進協議会 分科会 リーダー*

# 仮想IPLとは？

- 実在する企業をターゲットに、企業の経営層への提案、報告を行うことを仮想して行われるIPL活動です。
- IPL推進協議会にて、複数のテーマ候補が提示されました。
- 同じテーマを選択したIPLを学びたいという有志メンバーが集まってチームをつくり、IPLを行いました。

本発表では、仮想IPLの事例と、その学びを紹介します。

# IPLテーマ： 家庭用ロボットの展開・浸透のための方向性・戦略の提案

## 本テーマを選択した理由

**1. 現状として、ロボットの要素技術は開発済みであり、特許データが利用できる。**

産業用途の人協調型ロボットに関する要素技術は確立しており、産業用ロボットに関する特許出願は多い。ただし、家庭用途の特許出願件数は多くないと予想（事前仮説）。

**2. 将来像として、家庭用ロボットの浸透が期待されている。**

家庭用ロボットは、コミュニケーション、掃除・警備などのホームアシスタント、介護などで、より多く使われることが期待されている。

**3. 現状と将来像の間でギャップがあり、バックキャスト型IPLテーマとして適している。**

現状では家庭用ロボットが浸透するには至らず、何かしら課題がある。家庭用ロボットが普及する将来像を仮説設定して、課題を乗り越えるためのバックキャスト型IPLテーマとして適している。

# 仮想 提案先：トヨタ自動車向けの新規事業提案

## トヨタ自動車を選択した理由：

### 1. 現状と特許データ

トヨタは、生活支援ロボットの開発を2012年から行っている。ロボットや介護に関する技術の特許出願もしているため、特許データを使って分析できると予想。

### 2. 将来像

トヨタが開発中の大規模社会実験都市（Woven City）のスマートシティに対して、人協調型ロボットを適用し、今後もロボットの開発を促進していくと思われる。

### 3. ギャップ

スマートシティというテーマを充足させるために、新たな活動をしたり他社と提携する可能性があると想定した。

# 活動の期間

2022年9月  
チーム組成  
IPLテーマ決定  
対象企業の決定

2022年12月20日  
中間発表

2023年3月22日  
最終発表

トヨタ自動車様を仮想報告先と  
いう設定で、

**モビリティ新事業**  
**介護ロボット技術**

の提案内容を、  
IPL推進協議会で発表しました。

注：

実際にトヨタ自動車株式会社にプレゼンテーションを行ったわけではなく、  
IPランドスケイピング推進協議会のなかでの活動としての発表を行いました。

**情報収集：非特許 ロボットおよび介護**

**情報収集：非特許 対象企業トヨタ**

**情報収集：特許データ トヨタ**

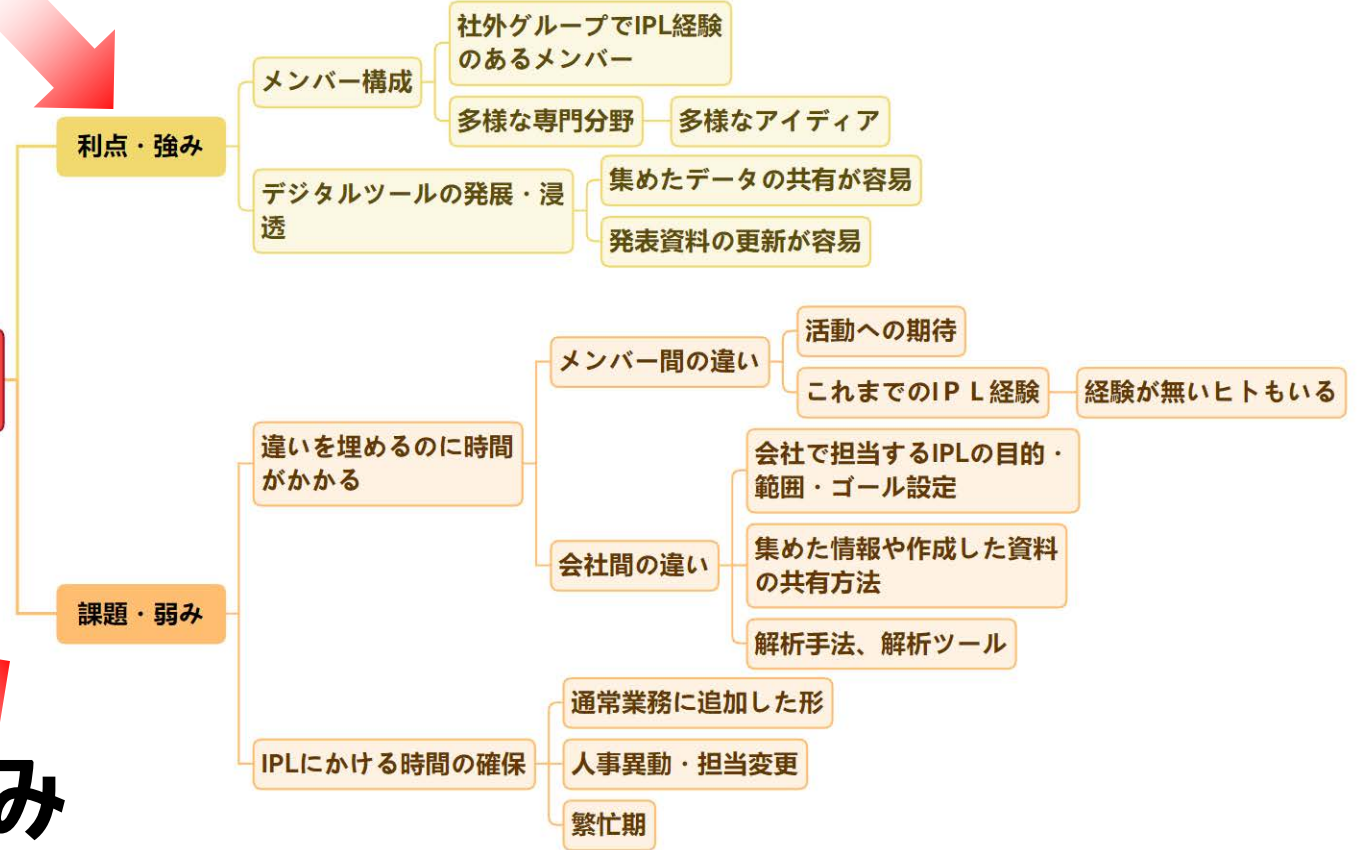
**トヨタのSWOT**

**提案**

# 今回のIPLチームの利点・強み

1. IPL経験の豊富なメンバー
2. デジタルツールの発展

ミッション：チームでIPLに成功する

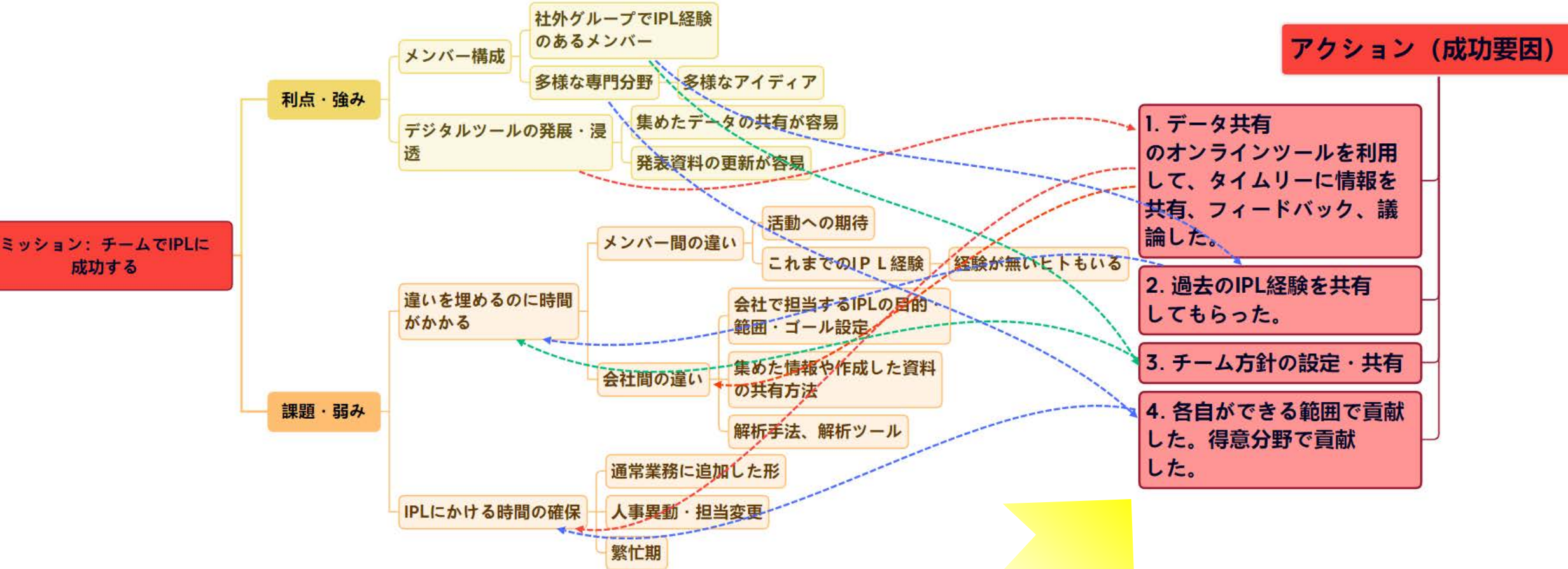


# 今回のIPLチームの課題・弱み

1. メンバー間のIPL経験の違い
2. 会社間のツールの違い
3. IPLにかかる時間の確保



# 課題の解決のためにとったアクションと成功要因



「利点・強み」をつかって、  
チーム活動の課題を解決しました。

# IPL分科会活動から学んだこと

## 学んだこと

### アクション (成功要因)

1. データ共有のオンラインツールを利用して、タイムリーに情報を共有、フィードバック、議論した。

2. 過去のIPL経験を共有してもらった。

3. チーム方針の設定・共有

4. 各自ができる範囲で貢献した。得意分野で貢献した。

1. 社外グループで生産的に協力するノウハウ。集めた情報の利用方法。

2. IPLの着眼点、考え方、アイディアの出し方（情報収集～SWOT分析～提案の仮説設定～特許調査～提案）

3. 社内外でIPLを進めるときの、IPLプロジェクトのチーム活動の進め方。目標のすり合わせ、キャッチアップが大事。

4. ほかの会社の考え方、ツール利用方法や解析方法など。

「うまくいく、と言えるなら、自分でやってしまっても良い。」